

すぽっとライト

マイクを持って街へ No. 20

高知市内でバリアフリー教室を開催するとき、協力していただいています高知市障害者福祉センターの千頭 哲さん、吉良 将利さん、小川 明希さんにお話を伺いました。

○センターの概要について

高知市障害者福祉センターは、社会福祉法人高知市社会福祉協議会の運営する身体障害者通所授産所と身体障害者福祉センターの複合施設です。

高知市障害者福祉センターの1階では身体障害者通所授産所を運営し、2階の身体障害者福祉センターは、社会参加促進事業・障害者相談支援事業、障害者支援窓口事業を行っています。

この中で、社会参加促進事業の一環として行われるふれあい体験学習は、四国運輸局などの各種団体からの依頼を受けて行っています。



左から千頭さん、吉良さん、小川さん

○体験学習はどの程度行っていますか？

ふれあい体験学習は、主に高知市内の小・中・高校で、年間に60～70校を訪問して行っています。100名規模の大人数で行うこともありますが、やはり人数が多すぎると効果が薄くなるので、できるだけ少ない人数で行っています。

○体験学習の内容は？

車いす体験、アイマスク体験、点字体験、手話体験を行っています。



教室の様子(H20年JR高知駅)

○最近印象に残ったことはありますか？

障害のある人は決してかわいそうではないことを生徒に伝えています。

最近、わかりやすく説明するために「自分に例えれば、不得意な教科があって、そこだけを指摘されて、かわいそうと言われたら嫌ですよ。自分のいいところも見てくれとお願いしたいですよ。」と話しかけています。

2月1日の高知新聞に、ふれあい体験学習に参加したことのある小学生の作文が掲載されていました。それは、障害のある人はかわいそうではないという、私達が伝えてきたことを理解してくれている内容でした。とても感心したことでした。



教室の様子(H20年JR高知駅)

○体験学習で伝えたいこと

多くの児童は、障害のある人といえは体が不自由であることしか思いつかないようです。そこで、例えば足の不自由な人はエレベーターや車いすマークの駐車場が、目の不自由な人は点字ブロックがあることにより、障害のない人と同じ生活ができていますが、点字ブロックの上に自転車が置いてあったり、車いすマークの駐車場に、それを必要としない人が停めたりすることにより、障害のある人の動作に障壁ができるということを体験学習では伝えています。

また、低学年の生徒には「泣いている下級生がいたらどうするか？なぐさめるよね。」というように理解しやすいように説明することにしています。

○教室の効果は実感できますか？

教室が終わった後、生徒達が感想文を送ってくれます。その中に「点字ブロックの上には自転車を置かないようにします。」「障害のある人は、環境によって私達と同じ生活ができることがわかりました。」などという感想があると、私達の伝えたいことが理解できていると感じます。



教室の様子(H19年布師田小学校)

○今後・・・

生徒に限らず、企業やボランティア団体への講習会も予定しています。受講者の年齢や目的に応じた内容の講習会を開催して行きたいと考えています。

○最後に

体験学習を通して、障害のある人は、私達の地域にあるバリア（点字ブロックの上に自転車を停める・車いすマークの駐車場に、必要としない人が停めたりする等）がなくなることによって、障害のある人も障害のない人も皆が当たり前で生活ができると伝えています。

〒780-0935 高知県高知市旭町2丁目21-6
高知市障害者福祉センター
電話:088-873-7717
FAX:088-873-6420
<http://www.inforyoma.or.jp/genki-support/>

インタビュー実施日：平成21年2月17日 聞き手：長尾、井上

